

去る3月12日は、県のゆるキャラくまモンの誕生日でした。ゆるキャラが、日本中で人気になりくまモンが特に人気がありました。

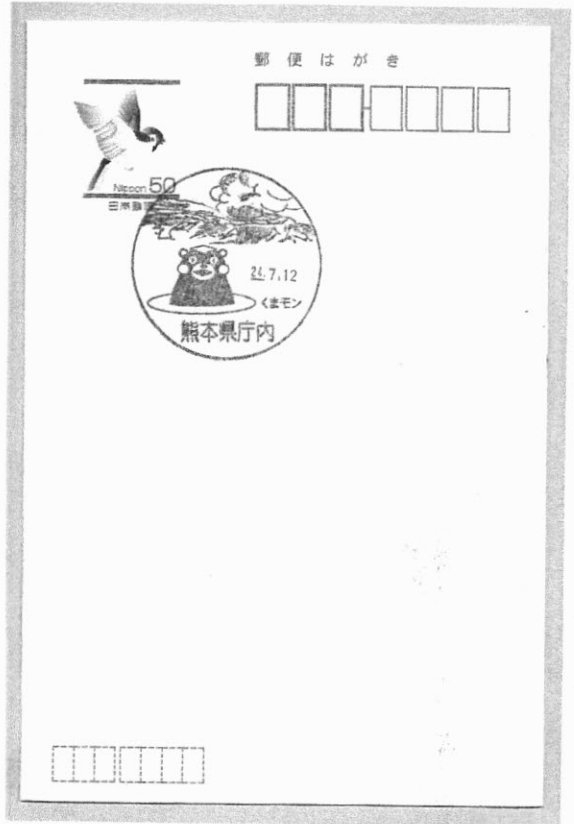
ゆるキャラとは、アメリカのディズニーランドのミッキーマウスのぬいぐるみから案を得て日本独自に発達したもので、日本国内で一応通用するが、世界的にはミッキーマウスのぬいぐるみを思うと、ゆるキャラの独自性は見いだせないみたいだ。

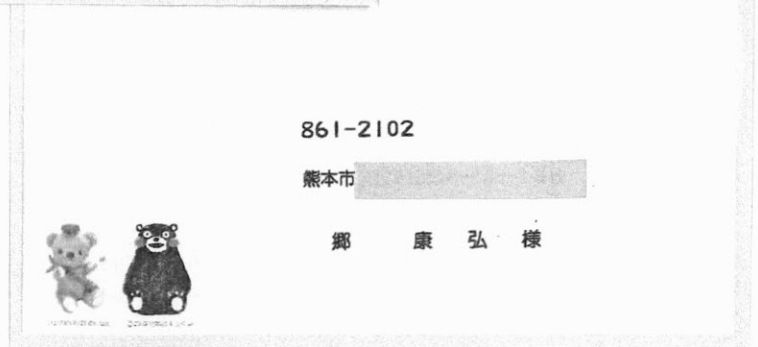
世の中、パソコン・スマホが日本社会を席捲するようになり、心の癒しを動物を飼うだけでは済まされなくなり、その無情な薄情な生活に息抜きみたいな感じで色々と登場してきて熊本県のくまモンがメインな活躍を今でも続けている。動物の熊を含む県は熊本県のみで、熊本市のイメージキャラクターだったならば、肥後手毬歌「あんたがたどこさ」の船場タヌキがクロースアップされたであろう。

船場は熊本中央郵便局辺りで、その郵便ポストには50cmくらいのタヌキの像が添えてあり、もし市のゆるキャラだったならばタヌキに落ち着いたと思われる。このくまモン、黒色の体・顔に赤い頬っぺたが印象的であり、美術的には、うまく紅一点的印象効果が熊本の深い緑葉を彩る紅椿を思わせて、県民の一人として自慢しても可笑しくないと思う。

しかし、熊といった動物はトラ・ライオンみたいに獐猛ではないが、分別が付かずに人間を襲ってしまう事があり、ただ単に可愛らしさに他県民の方が愛着を持たれても、県民としては困る結果になるだろう。阿蘇市内のカドリー・ドミニオン(旧熊牧場)では多くの熊が飼育されており、そのチンパンジーのパン君がテレビの「動物わくわくランド」に出るようになり巷は様変わりしたと思っていましたが、そうでは無かった。

このくまモンのラベルを熊本の中小企業の商品に貼ると売れ行きが上がるようで、経済理論で売るのではなく無情な薄情なパソコン・スマホを拒絶する古い体質の人間への暖かい親近感を演出しているみたいです。





## 荒尾市制施行 80 周年 フレーム切手

日本郵便九州支社は、3月1日荒尾市制 80 周年を記念したフレーム切手を発売した。70 周年時に続き 2 回目。荒尾市内 9 郵便局とネットショップで取り扱い。デザインは、同社と市が共同にて行い 2015 年に世界文化遺産に登録された万田坑や、2019 年にオープンした「水鳥・湿地センター」などの写真をあしらった。

市役所であった贈呈式では、荒尾打越郵便局長の本田廣氏より、浅田敏彦市長にフレーム切手が送られた。

1 部 1380 円 同社 ☎328-5436

